



第22号

2005.3



社団法人 千葉県緑化推進委員会

～世界の緑化から千葉県の緑化まで～

京都議定書がついに発効されました。とはいえ、温暖化防止に関するCO₂削減目標の達成は大変困難な状況です。一方、世界では相次いで自然災害が発生し、私たちの暮らしを支える多くの森林が傷つきました。そのような状況もあってでしょうか、みどりに対する関心は大きな高まりをみせています。千葉県内の緑化運動もこれまで以上の盛り上がりを見せています。そこで今回は、緑化運動のうねりを象徴するいくつかのニュースをご紹介します。

マータイさん、 植林でノーベル賞



ノーベル平和賞を受賞した
ケニアの女性・ワンガリ・
マータイさん
=毎日新聞社提供

マータイさんは1940年生まれ。生物学者をめざして71年にナイロビ大学の博士号を取得しました。アメリカ留学から帰国後、開発による森林の伐採で薪を集められず、子どもの食事を作ることもできない農村女性の姿に胸を痛め、自宅の裏庭に7本の木を植えました。これをきっかけに77年「グリーンベルト運動」を創設。土壌の浸食を防ぐための植林を、貧困に苦しむ女性を動員して行うという斬新な手法で、砂漠化防止などに取り組んだのです。現在ケニア全土に約1,500ヶ所の苗床を持ち、参加者は女性を中心に約10万人、植林した苗木は3,000万本に達しています。さらに、運動はケニア国内だけにとどまらず、アフリカ20カ国にも広がっています。マータイさんの活動の中心は森林回復のための植林ですが、単なる自然保護ではなく、木を育てることを通じて貧しい人々の社会参加の意識を高め、人々が生活や社会を自力で変えていけるようにも尽力しました。

こうした活動が評価され、マータイさんは昨年、ノーベル平和賞を受賞しました。アフリカ女性としては初の受賞でした。ノーベル賞委員会は授賞理由を「マータイさんは、ケニアおよびアフリカ全土で環境を維持できる社会、経済、文化を発展させる戦いの最前線に立っている。民主主義、人権、女性の権利を尊重した、持続可能な開発に向け、全体的な取り組みをしている」としました。委員会がノーベル平和賞の対象を環境分野にまで広げたのは初めてのことです。

また、マータイさんはスピーチで、「平和と環境が何の関係があるのかと尋ねる人もいたが、多くの戦争は資源をめぐることで、資源はどんどん減少している」と強調しています。その上で「もし持続可能な方法で資源を管理できれば戦争も減るでしょう。地球環境を守ることは平和を維持することに直接つながっている」と語り、「私たちが木を植える時には同時に子供たちの未来も守っている」と述べました。

ついに発効！ 京都議定書

現在ケニアの副環境大臣も務めるマータイさんが今年2月、来日しました。来日に伴い、京都議定書が2月16日に発効することを記念し国立京都国際会館で行われた環境省などによる記念行事にも出席し、基調講演を行いました。

京都市で97年に開かれた気候変動枠組み条約第3回締約国会議(COP3)で採択されてから7年2カ月。ついに発効した京都議定書。世界が地球規模の環境破壊を招く温暖化に対して、法的拘束力を持って取り組む新たな段階に入ったのです。

基調演説の中でマータイさんは、「個人一人ひとりが議定書への理解をもつことが大切。小さなステップでもいいから温暖化防止を進めなければいけない。温室効果ガスを減少させるために森を守っていくことに力を出さなければいけない...」と述べました。



📍ケニア・ナイロビ郊外の村で植林活動を行うマータイさん=毎日新聞社提供

愛知万博、大にぎわい



「自然の叡智」をメインテーマにした「愛・地球博」(愛知万博)が始まりました。会場ではそれぞれのパビリオンで、地球温暖化やエネルギー問題など人類共通の課題を解決するため、人間が自然から学ぼうという従来にない斬新な試みをみせています。愛知万博がめざしているのは人類と自然が共存する未来社会なのです。(社)国土緑化推進機構も地球市民村において、パビリオン「森のいろいろ館」を出展しています。愛知万博へ出かける方は是非お寄りください。ところで、来日し、愛知万博を見学したマータイさんは、飛び入りで書道大会にも参加したそうです。そこで全紙に書いたのは「木」の字の大書でした。なんだかうれいすね。

会期：3月25日～9月25日

会場：名古屋東部丘陵

快挙、ポスター原画コンクール

世界的なうねりや万博のことをご紹介しましたが、千葉県でのうねりもご紹介しましょう。はじめは子どもたちの活動です。

毎年秋に行われる国土緑化運動ポスター原画コンクールの応募点数が、なんと9,740点に達しました。少子化の時代にあっても応募点数は毎年増加の一途をたどっていて、主催者としてはうれしい限りでした。それがまもなく1万人。緑化に関心を持つ子供たちが増えるというのは、未来の千葉県のみどりにとって大変な希望です。

そしてさらに驚いたことに、応募作品のうちのなんと4点もが全国審査で受賞したのです。林野庁長官賞に輝いたのは笹森真優さん、国土緑化推進機構理事長賞には林青空さん、難波靖光さん、そして桐谷友花里さんが選ばれました。千葉県はこれまでもポスター原画に採用されるなど、すばらしい成績をあげてきましたが、一度に4人もの作品が受賞したのは初めてのことです。



国土緑化推進機構理事長賞に輝いた笹森真優さんの作品



国土緑化推進機構理事長賞受賞の林青空さんの作品



国土緑化推進機構理事長賞受賞の難波靖光さんの作品



国土緑化推進機構理事長賞受賞の桐谷友花里さんの作品

みどりの少年団、大活躍

もう一つ、子どもたちの活躍をご紹介します。千葉県内の緑の少年団の活動がとても活発になってきています。伝統的な活動からユニークな活動まで、多彩な形で展開し始めた感があります。詳細は4ページにご紹介しています。ご一読ください。

ちば里山センター、オープン

続いて大人の活動のニュースです。ちば里山センターがオープンしました。平成16年9月17日、千葉県里山条例の具体化を目指し、18の団体が協力して設立しました。里山で活動している団体や、里山に関心があ

る県民・企業など、いろいろな立場の人々が交流や情報の共有を通して、それぞれが持っている技術や知恵、人材などの財産を合わせることにより、ひとつの大きな力となって、多様な里山活動を互いに支えながら、人や生き物にとってかけがえのない里山の環境を、未来に引き継ぐことを目的としています。今年1月23日にはフォーラム「未来に継承ぐちばの里山」を開催。1,500人の方が参加しました。

このほかにも、「緑の募金が法制後丸10年」、「第54回全国植樹祭記念事業 県内全市町村で植樹を実施」など、ビッグニュースが目白押しでした。緑化運動は息の長い関わりを必要とします。まさに「継続は力なり」の世界です。次世代の参加も含め、少しずつでも国民総参加で未永く緑化運動を支えて行こうではありませんか。

みどりの少年団 **GENK!** が元気です!

県内に73団が結成されているみどりの少年団。みどりを守り育てることはとても長いスパンで考える必要があります。みどりの少年団は、次代を担う少年少女たちが自然に親しみ、みどりを育てる活動を通じ、健康で心豊かな人間性を備え、団活動を行うことで、責任と協力の心を培い、明るい社会人に育つことを願って結成されています。そんなみどりの少年団がとても元気です。今回はいくつかの活動事例やニュースを紹介してみたいと思います。

千葉市立横戸小学校みどりの少年団

千葉市内の小学校では唯一学校林を有する横戸小。横戸小学校みどりの少年団は、この学校林をベースにした大変ユニークな活動を行っており、地域が一体となった活動に広がりを見せています。

なお、この活動が高く評価され、(社)国土緑化推進機構による審査の結果、第28回全国育樹祭併催行事として昨年10月23日に徳島県で開催された「全国緑の少年団活動発表大会」に出場できる7団の一つに選ばれ、発表を行いました。翌日は皇太子殿下の前で苗木をいただきました。



全国緑の少年団活動発表大会の様子



育苗活動をする横戸小の児童たち

学校林の中にはピオトープも



千葉瑞穂みどりの少年団

千葉瑞穂みどりの少年団は、「地域型」の少年団で、地域の緑あふれる環境づくりに積極的な活動を行っています。

特に、親子参加や子どもたちが緑に親しむ楽しさを随所に取り入れた活動が特徴で、その活動にはいつも笑顔があふれています。

またみどりづくりの原動力ともいえる「緑の募金運動」へも積極的に参加しています。



モミの木にクリスマスの飾り付けをして緑に親しむ

JR千葉駅前での緑の募金活動にも参加



九十九里町立豊海小学校みどりの少年団

本県は三方を海に囲まれ長い海岸線を有していません。海岸には防風林としてマツが植えられますが、松くい虫により大きな被害を受け、危機に瀕しています。

そんな中、九十九里町立豊海小学校みどりの少年団は、松くい虫に強い抵抗性マツを新たに植樹し、海岸線に昔ながらの「白砂青松」の姿を取り戻そうと取り組み始めました。



地域のボランティアの方々とマツを植える豊海小みどりの少年団



森林セラピーとは

森林セラピーって何？あまり聞いたことがない言葉ですね。セラピー(英語: therapy)とはギリシャ語の“癒し・付き添い”に由来する言葉で、現在では治療・療法と訳されます。アロマセラピー(芳香療法)、ミュージックセラピー(音楽療法)などが有名ですね。森林には、木漏れ日、小鳥のさえずり、小川のせせらぎ、渡る風など、人の脳波や脈拍と同調できる「ゆらぎ」が満ちていて、身を置くことで心身を癒し、活力を養ってくれるそうです。森林セラピーというのはこれをさらに進めて、医療と連携し、森林をより積極的に健康・医療に役立てようとするものです。

ドイツでは

ヨーロッパでは自然療法・森林療法が盛んで、特にドイツが先進国といわれています。保養地として有名なバーデン・バーデンでは、温泉、療養局、営林署および市有林事務所が協力して、森林を利用したテルラインクーラ(地形のアップダウンを利用した運動療法、地形療法)が行われています。森林官はテルラインクーラ路の設計や森林管理にかかわるだけでなく、散策に同行し、森林インストラクターの役目も果たすそうです。

大切なのはリズム？

ヨーロッパではとても盛んな森林セラピーですが、日本はやっとスタート台に立ったばかり。森林が健康に良いことを立証する科学的な解明もこれからです。でも、森の中にいるとほっとするなあと思ったことは誰にでもある経験ではないでしょうか。森に限らず緑を見ているとなんだかやさしい気持ちになりませんか？たとえば、緑色の田んぼの上を風が渡っていくのが見えたり、庭の木が芽吹き始めるのを見つけた時。そういえば目だけではありませんね。匂いでほっとすることもあります。野原で草いきれを感じたりした時、いかがでしたか？「快適性とはリズムの同調である」と言った人がいます。人類はその長い歴史の大部分を森林や緑という

昨年3月、「森林セラピー研究会」(会長・秋山智英(社)国土緑化推進機構副理事長)が本格的にスタートしました。君津市の森と千葉市内の繁華街で早くも実験が行われ、森林浴のリラックス効果が世界で初めて医学的に立証されたとの新聞報道もありました。そこで、これからますます注目される「緑の健康効果」について考えてみます。

森へ行こう！「緑の健康効果」

参考資料

「森林療法序説
森の癒しとはじめ」
上原巖著
「PE 技術士」
2004年11月号
“森林セラピー”
下山晴平

自然に同化しながら過ごしてきました。森と人の心身の波長が合うのは当然です。「気分」という要素も加えた森林総合研究所の実験では、都市環境よりも森林環境で、運動の前よりも後の方が「抑うつー落ち込み」感が薄らいだそうです。人は自然の中にいると本来のリズムを取り戻せるということかもしれません。

子どもたちにとっての緑

現代社会においては、子供たちも多忙です。そんな子供たちにも、緑の不思議な力を感じてもらいたいものです。キャンプや田舎のおじいちゃんの家で遊んだ思い出。大きな木の幹でカブトムシを捕まえたこと、朝、鳥のさえずりがにぎやかだったこと、山菜取りに行ったこと、夜、森は真っ暗になること…。とても大切な思い出になっていませんか？大人になると、子ども時代の思い出は宝物です。特に自然の中での思い出は。

ところでゴルファーの緑化促進協会は、「校庭を芝生に」という運動を行っています。これは、コンクリートなどの硬い学校のグラウンドに芝生を植えて、体にやさしい学校グラウンドにしようという運動です。

また教育現場では学校林や教育の森を利用した活動も活発化しています。授業の中で森の植物や生き物を観察したり、命を育てたりしようとするものです。

芝生のグラウンドで走ったり、授業で森に入ったり…。自然とふれあう機会が、子どもたちにとって貴重な体験になることは間違いありません。

デジタルな情報があふれる現代社会では、ストレスから逃れることはできません。自然回帰することで私たちは健康バランスを保てるのかもしれません。IT社会はこれからも進化するでしょう。となると、森林や緑などの自然が果たす役割は同じように大きくなるはず。自然と向き合う時間、緑にふれあう時間、大切にしたいものです。さあ、森へ出かけましょう。疲れている人も、子どもも。森の不思議な力、語るより感じるしかありません！

緑

自

慢

東武野田線・初石駅のそばにある流山高校は、園芸科、生活科学科、会計科、情報処理科を持つ全日制の高校です。生徒数は475名。このうち、園芸科と生活科学科を合わせた農業科の生徒数は240名です。校内の約1万平方メートルもある農業実習地のほかに、校外には4,959平方メートルの農業果樹園があり、生徒たちはのびのびと農業実習に臨んでいます。

農業実習で育てるのは、サイネリア、プリムラ、カーネーションといった花や、マスクメロン、トウモロコシ、ナス、キュウリ、トマトなどの野菜、そしてナシ、ブドウ、ブルーベリーなどの果樹です。できた野菜や果物は、課外実習としてリヤカーに積んで周辺の住宅地で販売したり、文化祭で売ったりもします。「ナシは甘いし、野菜は日持ちがするとかで、なかなか評判がいいんですよ。生徒たちの一生懸命な気持ちが入っていますからね」とおっしゃる福井正人先生。

一方、花も大活躍します。市川市で毎年開催される産業教育フェアでの展示即売のほか、3月の1ヶ月間は、柏駅に隣接するデパートを生徒たちが育てたパンジーやラナンキュラス460鉢が飾ります。そして今年は例

年にない特別なイベントが。それは、この夏、千葉県で開催される「千葉きらめき総体」。県内の園芸科がある高校14校が協力して、開会式のメイン会場、幕張メッセを花で飾るのです。流山高校の生徒たちは、ケイトウ、ニチニチソウを出荷する予定です。その数、プランター100個分。「温度管理などをしっかりして、タイミングよく開花させないといけませんね。念のため、出荷する数の倍の量を用意する予定です。去年のような厳しい暑さでないことを祈りたいです」。先生も生徒たちもこの春から夏は真剣勝負です。

とはいえ、強い味方もたくさんいます。取材におじゃましたのは3学期の後半。卒業を控えた3年生は、空いた時間に作業道具の清掃や草取りなどを行っています。「OBたちも気軽に手伝いに来てくれますよ。入学してきた時には表情が荒れているなあと思うのですが、卒業の頃にはずいぶん素直な顔になります。土の力、自然の力はすごいです」。卒業生だけでなく、地域の農家などからも協力が絶えないという流山高校。地域の人々、先生たち、そして生徒たちが作っているのは、花や野菜だけにはとどまっていないようです。



オススメします。この本



「山の雨
上高地・幽玄森閑」
高野潤著

南米のアンデスやアマゾン域に通い続ける写真家の高野潤。

日本滞在時に訪ね、撮り続けたのは、長野県の上高地と梓川源流だという。その繊細にして微妙、豊富な自然変化。中でも雨を含んだ上高地に惹かれる著者。静かに呼吸するような上高地の姿を捕らえた写真集で、雨の力、自然の生命力が肉薄してくる。

岩波書店 3,360円(税込み)



「森の人、人の森。」
樹木・環境ネットワーク協会
「人の森プロジェクト」編著

2002年から始まった“森の聞き書き甲子園”。高校生が森に生きる人々を訪ね、その暮らしや仕事について話を聞いて書くプロジェクトである。そのプロジェクトに参加した高校生と森の名手・名人との再会、参加高校生たちの座談会などで構成。大人が読んでも感銘を受ける言葉が、一冊の中にぎゅっと詰まっている。

ウェッジ 1,680円(税込み)

上記の本、「山の雨 上高地・幽玄森閑」を1名に「森の人、人の森。」を3名の方にプレゼントします。ハガキに、希望する本住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、(社)千葉県緑化推進委員会「プレゼント」係へご応募ください。また、グリーンえっせんずをどこでご覧になったか、ご意見、ご要望もお書き添えください。あて先は8ページ右下参照。締め切りは7月末日(当日消印有効)。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

企業の中の緑

信田缶詰株式会社
(銚子市)

千葉県の水産物といえば、イワシ、サンマ、アジ、カツオ...。日本一の水揚量を誇る銚子港からは毎日豊かな海の幸が届けられます。その銚子港という産地を背景に、水産加工品約200アイテムを生産・販売しているのが信田缶詰。従業員数200名。創業は明治38年。すでに100年を超す歴史を誇っています。この100年間のロングセラー商品といえばイワシの角煮だそうですが、時代によって味付けも変化するそうです。たとえば、現在はイタリア産トマトを使ったイワシのトマト煮も。信田缶詰を一躍有名にしたあの「サバカレー」の誕生にも、やはり時代を読む目を感じます。

ところで、そうした信田缶詰の時代を捉える鋭い感性を育てているのが、社長・信田臣一氏の信念「夢と好奇心をもって常に新しいものを作ること」。その社長が1995年、視察先のフランスで衝撃を受けます。「150年続く缶詰工場があったので、どうしたらそんなに長く続くか聞いてみたのです。私は返事に驚きましたね。イワシがいるからだと言うのです」と信田社長。設備の良さでも資本力でもなく、イワシを大切に、環境を大切にすることこそ、企業が繁栄する理由だと教えられ、目からウロコが落ちる思いをしたそうです。「向こうにはコロンビア川というのがありましてね。この川の沖合いでたくさんのイワシが獲れるのですが、その大河の上流には豊かな森林があるのです。森が豊かな水を流し、その水がプランクトンを育て、その結果、魚が育つわけです。魚を育てるのは実は森だということを教わりましたよ。私たちにとっては利根川がコロンビア川ですかね。」

海の幸あってこそその信田缶詰。その海の幸を守り育てるためには、森を大切にしなければいけないと気づ

いたそうです。「そのようなことから、緑の募金運動にも毎年協力するようにしています。女性社員がキャラクター人形に緑の羽根をつけたりしましてね。社員の関心も意外に高く、新工場になった現在も続けられていますよ」と総務部の福井さん。

その新工場にももちろん、環境重視の考えが反映されています。敷地の中で緑地が占める割合は20%以上。環境に優しい排水処理施設を設け、水の無駄を極力抑えました。「現在、私たちの作った缶詰は世界中で食べてもらっています。中近東では妊婦さんにサバのフレークが大人気です。原材料の魚たちに国境がないように、環境についてもグローバルに考えるようにしています」と研究開発部の難波さん。「新しい工場の環境宣言にも注目していただきたいですね。新工場を見学していただければ、環境対策は利益につながらない、なんて言えなくなると思いますよ」。新工場に植栽された緑はまだまだ未熟ですが、これが育っていくこともまた楽しみです。



(社)国土緑化推進機構を中心に、全国の緑化推進委員会が展開している「もりのくに・にっぽん」運動。森林を守り育て、その恵みを活かして、持続的に循環させようというものです。そこで、森林に関わる人とそこから生まれた文化に注目し、全国から「森の名手・名人100人」を選定。今年も千葉県から2人の方が名手・名人に選ばれました。

土肥 健司さん(東金市・71歳)

サンブスギの伐採には独特の技術が必要です。土肥さんは、足にツメを履き、竹を裂いたものとロープを合わせたもので木を挟み、採材しながら登り、上部から段々に伐採していきます。切った木の落とし場所は枝の残し具合で調節し、周囲の障害物に支障がないようにうまく落としていく。まさに名人です。台風などで倒れた木を、地域の方々とともに率先して技術指導しながら片付けたり、機械で対応できないような場所での大木を伐採するなど、地域ではなくてはならない存在です。



内記 明男さん(君津市・70歳)

江戸時代末期から君津市泉地区で作られている「泉ざる」づくりを、7歳くらいから始めたという名人。「泉ざる」は、他の竹よりやわらかく粘りのある房州産メダケを主材料とするため、他のざるに比べ耐久性に優れているといわれています。千葉県優良県産品推奨品を多数製作。千葉県林業女性グループをはじめとする林業関係者に竹ざるづくりの技術指導も行っています。

内記明男さんにおかれましては、名手・名人に選定された後、お亡くなりになりました。心からご冥福をお祈りいたします。

森の名手・名人

～ 緑の募金法制定10周年～
春季・緑の募金にご協力ください

平成17年度 緑の募金運動
目標額3,500万円



3月1日から5月31日まで県内全域で「春季・緑の募金」運動を行っています。募金運動の方法は各市町村で異なりますが、募金は本委員会、各市町村窓口、募金箱設置にご協力の各事業所等で受け付けております。

県民の皆様の深いご理解と暖かいご支援をお願いいたします。

企業・学校等職場単位での募金や催しなどでの募金、また店舗や窓口等における募金箱の設置も推進しております。ご協力、ご関心のある際は本委員会までご連絡ください。

平成16年度においては緑の募金法に基づき、春季、秋季の2回を実施し、その募金総額は目標額を上回る35,000,482円に達しました。

お寄せいただいた募金は、みどりあふれるさわやかな環境づくりを目指し、学校や公園といった公共施設の緑化や緑化思想の普及啓発、緑の少年団の育成や森林整備ボランティア活動の支援などに大きく役立てられました。

またその一部は世界規模での緑化運動や森林の整備にも役立てられています。

国土緑化運動ポスター原画コンクール
展示会のお知らせ

平成16年度国土緑化運動ポスター原画コンクール入賞作品の展示会を下記のとおり実施します。県内の小・中学生がみどりへの想いを表現してくれた素晴らしい作品の数々をどうぞご覧ください。

本年度は過去最高の参加学校数に達し、応募も9,740点と大変多くの子どもさんたちに参加いただきました。また全国コンクールでも林野庁長官賞をはじめ本県から4点が入賞するなど極めて優秀な成績を修めています。

当コンクールは平成17年度も実施します。たくさんのお作品をお待ちしております。

期間	場 所	展示作品
4/22～ 4/28	千葉市中央区市場町1-1 「千葉県庁19階県民展示コーナー」	特別賞 特選の計36点
6/14～ 7/3	印西市多々羅田159 「県立北総花の丘公園花と緑の文化館内」	特別賞 特選 入選の計72点
7/12～ 8/2	柏市柏の葉4-1 「県立柏の葉公園 公園センター内」	特別賞 特選 入選の計72点

* 展示作品は展示場所により、上表のようになっています。

* 展示期間中の会場休館日は除く。
また会場等の都合により展示期間等が変更になる場合もございますので、最新の情報は当委員会ホームページでご確認ください。

平成16年度公共施設等の
環境緑化事業を実施しました

(社)ゴルファーの緑化促進協力会並びに県内協力ゴルフ場、各企業様からの緑化事業協力金により市町村から希望が寄せられた下記10カ所の公共施設等に植樹を行いました。

ふるさと千葉に、またみどりが増えました。

千葉市	千葉市立横戸小学校	カツラほか9本
習志野市	習志野市道00-009号線	サルズベリほか27本
船橋市	船橋市アンデルセン公園	タブノキほか34本
野田市	野田市堆肥センター	ハナミズキほか551本
佐原市	佐原市立香取中学校	クスノキほか905本
大栄町	大栄町テニスコート	マテバシほか384本
小見川町	小見川町火葬場	ドウダンツツジほか69本
一宮町	一宮町創作の里	カワツザクラほか58本
富山町	富山町立富山中学校	カワツザクラ9本
丸山町	丸山町立丸山中学校	アラカシほか320本

Topics

昨年から今年にかけては、世界中で多くの自然災害が発生しました。スマトラ沖地震とそれに伴う大津波、ヨーロッパやアメリカでの豪雨、度重なる台風の日本列島襲来、新潟県中越地震や福岡県西方沖地震、それに連続真夏日記録を更新した猛暑…。尊い命をたくさん失いました。また、流出したり破壊されたものは計り知れません。新年度を迎えるにあたり、これからはどうか穏やかな日々でありますようにと願わずにはいられません。

(社)千葉県緑化推進委員会に寄せられた募金は、森林の整備やみどりづくりに活用され、地球温暖化防止のためにも役立てられています。地球の自然を守り、みどりを守り、少しでも災害がくい止められたらと思います。

表紙の絵

表紙の作品は平成16年度国土緑化運動ポスター原画コンクールにおいて、中学校の部で特別賞(千葉日報社賞)を受賞した、流山市立北部中学校 1学年小澤満帆湖さんの作品です。



グリーンえっせんす 第22号

2005年3月31日発行

発行/(社)千葉県緑化推進委員会

URL <http://www.c-green.or.jp/>

〒299-0265 袖ヶ浦市長浦拓2号580-148

TEL.0438-60-1521 FAX.0438-60-1522

印刷/凸版印刷(株) TEL.043-350-5611

この広報誌は、古紙配合率100%の再生紙を使用しています。